

2017年6月26日

東京工芸大学

**東京工芸大学から「色」に関する情報発信****国内初「色」の常設ギャラリー****「カラボギャラリー(col.lab gallery)」を7月22日(土)にオープン**

東京工芸大学(学長:義江 龍一郎 所在地:東京都中野区、神奈川県厚木市)は、文部科学省の平成28年度「私立大学研究ブランディング事業」に選定された『「色」で明日を創る・未来を学ぶ・世界を繋ぐKOUGEIカラーサイエンス&アート』をテーマにした取組みを進めています。

このたび、その活動の一環で、国内で初となる「色」の常設ギャラリー(愛称:カラボギャラリー)を2017年7月22日(土)にオープンすることになりましたのでお知らせいたします。

本学は、1923年に写真の専門学校として出発し、その精神をテクノロジーの分野では工学部、アートの分野では芸術学部が受け継いでまいりました。いずれも色彩や画像に関連する分野を学問体系に持ち、産業界に貢献できる教育、研究活動も多く手掛けてまいりました。

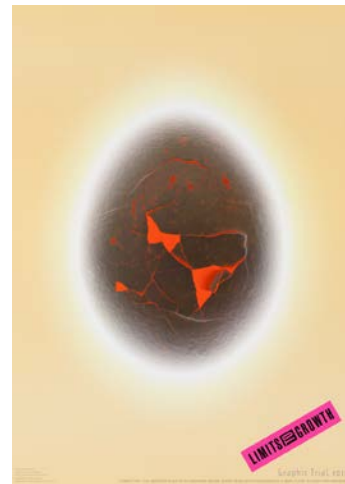
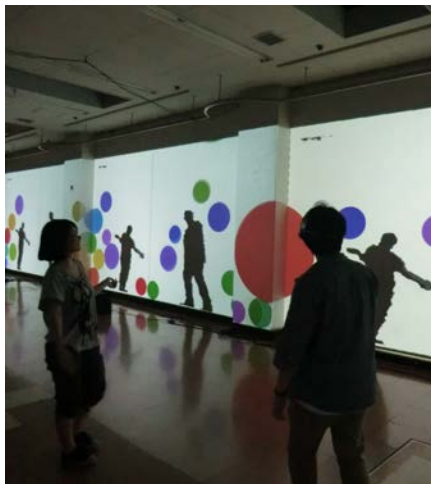
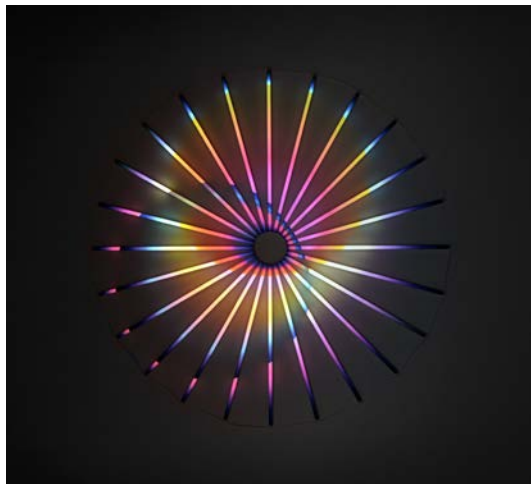
昨年、さらに「色」に関する研究を深化、探求することを目的に、「色の国際科学芸術研究センター」(愛称:col.lab=カラボ)を設立し、「色」に関連するテーマの研究活動を加速させております。

同時に、その研究成果を発表する機会を模索してきましたが、拠点である厚木キャンパスの中に、常設の「ギャラリー」を開設することになりました。このギャラリーからは、「色」に関する研究成果を展示形式で多くのステークホルダーの皆様に情報発信をしてまいります。

また、このギャラリーの初の企画として『色をつくる ~赤と何色を混ぜると緑色になる?~』を2017年7月22日(土)~2018年3月17日(土)の日程で開催します。

会場では、ライトアート、インタラクティブアート、印刷、伝統工芸など、さまざまな分野のアートやデザイン作品を展示します。これらの作品の色彩生成の過程を体験することによって、達人たちが紡ぎ出す色彩の多様性、神秘性の秘密の一端を覗き見ることができます。特長は、「色」をテーマにして、最先端の「アートとテクノロジーの融合」を体験できることです。これは、「工・芸融合」を特色とする本学の学びの面白さを知ることにもつながります。普段、何気なく触れている「色」の世界を深く知ることから、豊かな学びの種が見つかるかもしれません。

国内では珍しいこの「色」に特化したギャラリーにご期待ください。多くのご来場をお待ちしております。

**『色をつくる ~赤と何色を混ぜると緑色になる?~』の展示作品の一例**

【左】ライトアート (James Clar) / 【中央】インタラクティブアート (藤本直明) / 【右】印刷における色彩 (勝井三雄)

## 【カラボギャラリーの概要】

■名称:カラボギャラリー

■所在地:東京工芸大学 厚木キャンパス 12号館2階 (住所:神奈川県厚木市飯山1583)

■開館期間:2017年7月22日(土)～通年

■開館時間:10:00～17:00

■入場:無料

■休館日(予定):月曜日、日曜日、祝日 ※休館日は、状況に応じて変更する場合があります。

■URL : <http://www.color.t-kougei.ac.jp/gallery>



**【本リリースに関するお問い合わせ先】**

東京工芸大学 広報課 電話 :046-242-9600

e-mail : [pr@office.t-kougei.ac.jp](mailto:pr@office.t-kougei.ac.jp)